

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年5月27日に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果を報告します。

報告内容

- 1 調査の実施状況
- 2 教科に関する調査の結果
 - ・小学校国語、算数
 - ・中学校国語、数学
- 3 質問紙調査（生活や経験について）の結果
- 4 教科に関する調査の結果と質問紙調査の結果との関係から
- 5 結果をもとにした安城市の傾向と今後の取り組み

1 調査の実施状況

調査実施日	令和3年5月27日
調査内容	教科に対する調査（小学校 国語、算数、中学校 国語、数学） 質問紙調査
調査対象	小学校21校6年、中学校8校3年
調査状況	小学校 国語1、829名、算数1、828名 中学校 国語1、701名、数学1、700名

2 教科に関する調査の結果

各教科それぞれの領域について、全国の平均正答率と比較をし、

「◎：たいへんよくできている」

「○：よくできている」

「□：おおむねできている」

「△：やや劣っている」

「▲：努力を要する」の5段階で示した。（以下の例参照）

(例)

教科の総合判定

A教科 「○ よくできている」

学習指導要領の内容	B 書くこと	□
評価の観点	知識及び技能	○

この場合、A教科において、総合判定では全国比で「○ よくできている」という結果であると示している。また、「B 書くこと」に関しては、全国比で□「おおむねできている」。「知識及び技能」については、全国比で○「よくできている」という結果であると示している。

<小学校6年生（教科に関する調査結果）>

国語全体 「 △ やや劣っている 」

分類		区分	結果
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	△
		A 話すこと・聞くこと	△
	思考力、判断力、表現力等	B 書くこと	▲
		C 読むこと	□
評価の観点		知識・技能	△
		思考・判断・表現	△
問題形式		選択式	△
		短答式	△
		記述式	△

問題別結果 ※「おおむねできている□」を除く		
問題番号	出題の趣旨	結果
1ー	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える	△
1二	資料を用いた目的を理解する	△
2四	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する	△
3ー	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える	▲
3二	目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する	▲
3三 (1) ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う（転がっている）	▲
3三 (0) ウ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う（積み重ね）	▲
3三 (2) イ	文の中における主語と述語との関係を捉える	△

算数全体 「 □ おおむねできている 」

分類	区分	結果
学習指導要領の領域	A 数と計算	□
	B 図形	□
	C 測定	□
	C 変化と関係	□
	D データの活用	□
評価の観点	知識・技能	□
	思考・判断・表現	□
問題形式	選択式	□
	短答式	□
	記述式	□

問題別結果 ※「おおむねできている□」を除く		
問題番号	出題の趣旨	結果
1 (1)	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	○
2 (1)	三角形の面積の求め方について理解している	○
2 (2)	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる	△
2 (3)	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる	△
3 (3)	データを二次元の表に分類整理することができる	▲
4 (3)	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	△

<中学校3年生（教科に関する調査結果）>

国語全体 「 □ おおむねできている 」

分類	区分	結果
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	<input type="checkbox"/>
	書くこと	<input type="checkbox"/>
	読むこと	<input type="checkbox"/>
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<input type="checkbox"/>
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	<input type="checkbox"/>
	話す・聞く能力	<input type="checkbox"/>
	書く能力	<input type="checkbox"/>
	読む能力	<input type="checkbox"/>
問題形式	言語についての知識・理解・技能	<input type="checkbox"/>
	選択式	<input type="checkbox"/>
	短答式	<input type="checkbox"/>
	記述式	<input type="checkbox"/>

問題別結果 ※「おおむねできている□」を除く		
問題番号	出題の趣旨	結果
2二	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	△
3四	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ	▲
4三	相手や場に応じて敬語を適切に使う	▲

数学全体 「 □ おおむねできている 」

分類	区分	結果
学習指導要領の領域	数と式	<input type="checkbox"/>
	図形	<input type="checkbox"/>
	関数	<input type="checkbox"/>
	資料の活用	<input type="checkbox"/>
評価の観点	数学的な見方や考え方	<input type="checkbox"/>
	数学的な技能	<input type="checkbox"/>
	数量や図形などについての知識・理解	<input type="checkbox"/>
問題形式	選択式	<input type="checkbox"/>
	短答式	<input type="checkbox"/>
	記述式	<input type="checkbox"/>

問題別結果 ※「おおむねできている□」を除く		
問題番号	出題の趣旨	結果
4	関数の意味を理解している	▲
5	与えられたデータから中央値を求めることができる	○
9（1）	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる	▲
9（2）	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している	△

3 質問紙調査（生活や経験について）の結果

安城市の結果データをもとに全国と比較した。それぞれの質問内容は文部科学省によって、以下のように分類されている。

基本的な生活習慣等
挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
学習習慣、学習環境等
地域や社会に関わる活動の状況等
ICTを活用した学習状況
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）（算数・数学）（英語）
新型コロナウイルス感染症の影響
各教科の調査時間の適切性

この質問内容について、全国比でよいと思われる回答と、課題があると思われる回答を以下に示す。

<小学校6年生（質問紙調査の結果）>

【全国比でよいと思われる回答】

学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語） → 学校の授業以外で、英語を使う機会が多い。
ICTを活用した学習状況 → ICT機器を、意見を交換したり調べたりするために、よく使用している。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学） → 算数の勉強が好きな児童が多い。

【全国比で課題があると思われる回答】

学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語） → 特に「国語の勉強が好き」、「目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしている」と答えた児童が全国比で低い。
学習習慣、学習環境等 → 家で自分で計画を立てて勉強をしている児童が全国比で低い。
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況 → 特に、学級の友達との間で話し合う活動で、相手の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていた回答した児童が全国比で低い。
総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳 → 特に、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んだと回答した児童が全国比で低い。

<中学校3年生（質問紙調査の結果）>

【全国比でよいと思われる回答】

ICTを活用した学習状況 → ICT機器を、意見を交換したり調べたりするために、よく使用している。
地域や社会に関わる活動の状況等 → 今住んでいる地域の行事に参加している生徒が多い。

【全国比で課題があると思われる回答】

ICTを活用した学習状況 → 1、2年生のときに、ICT機器を使用したと答えた生徒が全国比で低い。
総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳 → 特に、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した生徒が全国比で低い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語） → 1、2年生のときに受けた授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができたと回答した生徒が全国比で低い。
基本的な生活習慣等 → 普段、1日2時間以上テレビゲームをしている生徒が全国比で高い。
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況 → 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていたと回答した生徒が全国比で低い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語） → 特に、「国語の勉強が好き」と答えた生徒や、「授業で、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている」「言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている」と回答した生徒が全国比で低い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学） → 数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていると回答した生徒が全国比で低い。

4 教科に関する調査の結果と質問紙調査の結果との関係から

質問紙調査結果と平均正答率の相関関係について、正答率が高い層にみられる傾向を以下に記載した。

＜小学校6年生（正答率が高い層にみられる傾向）＞

基本的生活習慣等	朝食を毎日食べている児童が多い。
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童が多い。
	毎日、同じくらいの時刻に起きている児童が多い。
学習習慣、学習環境等	家で日本語を話している児童が多い。
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う児童が多い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）	国語の授業の内容はよく分かると思う児童が多い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数）	算数の授業の内容はよく分かると思う児童が多い。
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童が多い。
	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えると回答した児童が多い。
	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した児童が多い。

＜中学校3年生（正答率が高い層にみられる傾向）＞

学習習慣、学習環境等	家で日本語を話している生徒が多い。
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うと回答した生徒が多い。
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていと回答した生徒が多い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていると回答した生徒が多い。
	国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていると回答した生徒が多い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（数学）	数学の授業の内容はよく分かる回答した生徒が多い。
	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した生徒が多い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）	1、2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていたと思うと回答した生徒が多い。

5 結果をもとにした安城市の傾向と今後の取り組み

各教科の正答率と質問紙調査の結果などから見えてきた安城市の傾向と今後の取り組みについて、各教科（国語、算数・数学）と質問紙調査でまとめた。

(1) 各教科の傾向と今後の取り組みについて<国語>

<小学校国語の傾向のまとめ>

- ・（P. 2より）全体では、全国比で「やや劣っている」となった。特に「B 書くこと」において「努力を要する」となった。問題別結果からは、特に「自分の主張が伝わるように文章を考えること」、「自分の考えを書き表すこと」、「漢字を正しく使うこと」に課題が見られた。
- ・（P. 4より）質問紙調査では、「国語の勉強が好き」と回答した児童の割合が低いなど、授業への興味・関心や、自分の考えを表現することについて課題が見られた。
- ・（P. 6より）正答率が高い層に見られる傾向からは、国語の授業が「よく分かる」と回答した児童が、正答率が高い層に見られた。

<中学校国語の傾向のまとめ>

- ・（P. 3より）全体では、全国比で「おおむねできている」となった。問題別結果からは、文章から自分の考えをもつことや、言語を相手や場面に応じて適切に使うことなどに課題が見られた。
- ・（P. 5より）質問紙調査では、国語の学習に対する興味・関心や授業の理解度等に関して「国語の勉強が好き」と回答した生徒が全国比で低いなど、国語学習への意欲や学んだことを活用しようとすることに課題が見られた。
- ・（P. 6）正答率が高い層に見られる傾向からは、国語の学習に対する興味・関心や授業の理解度等の高い生徒が、正答率が高い層に見られた。

今後の取り組み

<小学校国語>

- ・「好きだ」「分かった」など、学ぶ意欲を触発し、国語に意欲的に取り組む児童を目指していく。
- ・授業の中では、考えを広げていく学習活動をもとに分かりやすい授業を推進し、特に「書いてまとめる」ことや「漢字を活用していく」ことに着目し、言語活動の充実を図る。

<中学校国語>

- ・「好きだ」「言葉の使い方が分かった」など、学習意欲の向上や、学んだことを活用できることの意識付けを図りながら、国語に意欲的に取り組む生徒を目指していく。
- ・授業のなかでは、自分の考えをもったり、文章にまとめて表現したりする授業を推進し、言語活動の充実を図る。

(2) 各教科の傾向と今後の取り組みについて〈算数・数学〉

〈小学校算数の傾向のまとめ〉

- ・(P. 2より) 全体では、全国比で「おおむねできている」となった。問題別結果からは、道のりの求め方や、面積の求め方の正答率が全国比で高かったが、データの分類整理や図形問題などに課題が見られた。
- ・(P. 4より) 質問紙調査では、授業への興味・関心について、「算数が好き」と回答した児童の割合が全国比で高かった。
- ・(P. 6より) 正答率が高い層に見られる傾向からは、算数の授業が「よく分かる」「将来役立つ」と回答した児童が正答率の高い層に見られた。また、「諦めずに解き方を考える」「公式やきまりのわけを理解するようにしている」と回答をした児童が正答率の高い層に見られた。

〈中学校数学の傾向のまとめ〉

- ・(P. 3より) 全体では、全国比で「おおむねできている」となった。問題別結果からは、データから中央値を求める問題の正答率が全国比で高かったが、関数の意味の理解や、平行四辺形の条件を説明する問題などに課題が見られた。
- ・(P. 5より) 質問紙調査では、数学の学習に対する興味・関心や授業の理解度等に関して「解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答した生徒が全国比で低かった。
- ・(P. 6より) 正答率が高い層に見られる傾向からは、数学の授業が「よく分かる」「諦めずに解き方を考える」と回答をした児童が、正答率の高い層に見られた。

今後の取り組み

〈小学校算数〉

- ・「好きだ」「よく分かる」など、今ある意欲を更に高めながら学習を進め、算数に意欲的に取り組む児童を目指していく。
- ・授業の中では、粘り強く解き方を考えたり、公式やきまりのわけを丁寧に考えたりしながら学習活動を進め、学習過程や考えのよさを実感できるようにしていく。

〈中学校数学〉

- ・「よく分かる」「諦めずに考える」など、今ある学習意欲を大切にしながら、数学に意欲的に取り組む生徒を目指していく。
- ・授業の中では、粘り強く解き方を考える場面や、考え方のよさが実感できるような場面を工夫し、学習過程や考えのよさをノートにまとめていく活動を充実させていく。

(3) 質問紙調査から見られる傾向と今後の取り組みについて

< P. 6 基本的な生活習慣等の傾向 >

小学校では、正答率が高い層に、「朝食を毎日食べる児童」「毎日同時刻に起き、同時刻に寝る児童」が多く見られた。中学校では、テレビゲームを1日2時間以上する生徒の割合が高かった。

< P. 4～6 学習習慣、学習環境等の傾向 >

小学校では、計画を立てて勉強する児童の割合が全国比で低かった。中学校では、塾や家庭教師に教わっている生徒の割合が低い傾向が見られた。小・中学校ともに、正答率が高い層に、「家で日本語を話している児童」が多く見られた。

< P. 5 地域や社会に関わる活動の状況等の傾向 >

中学校で地域の行事に参加している生徒が、全国比で多く見られた。

< P. 4、5 ICTを活用した学習状況の傾向 >

小・中学校ともに、「ICT機器を学習でよく使用している」と回答した児童生徒が全国比で多く見られた。

< P. 4～6 主体的・対話的で深い学びの視点からの取組状況の傾向 >

小学校では、「相手の考えを受け止めて自分の考えを伝えた」と回答した児童が、中学校では「自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりした」と回答した生徒の割合が全国比で低かった。

正答率が高い層に、小・中学校ともに「自分で考え、自分から取り組んだ」と回答した児童生徒が全国比で多く見られた。中学校では「分かった点やよく分からなかった点を次の学習につなげた」と回答した生徒が全国比で多く見られた。

< P. 4、5 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳の傾向 >

小学校では、「自分で課題を立てて学習活動に取り組んだ」と回答した児童が、中学校では「自分の考えを深めたり、話し合ったりしている」と回答した割合が全国比で低かった。

< P. 4～6 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）の傾向 >

小学校では、「授業以外で英語を使う機会が多い」と回答した児童が多かった。中学校では「英語で気持ちを伝え合った」と回答した生徒が全国比で少なかったが、正答率が高い層に「英語で気持ちを伝え合った」と回答した生徒が多く見られた。

今後の取り組み

- ・家庭学習の支援を意識しながら、規則正しい生活習慣を大切にしていく。
- ・「家で日本語を話していない児童生徒」の支援を意識して子ども理解を進めていく。
- ・地域行事に参加する生徒のよさを生かし、地域と連携した学習活動を推奨していく。
- ・各校のICTの学習利用が増えていることを生かし、タブレットを有効に使った学習や、プログラミング教育を進めていく。
- ・課題に向けて主体的に取り組み、話し合いながら学んだことを生かしていく授業を推進し、主体的・対話的な学びの充実を図る。
- ・自分で課題を立てて学習活動に取り組んだり、自分の考えを深めたり、話し合ったりする授業を推奨していく。
- ・英語を使う機会が多い小学校の経験を生かして、中学校では特に気持ちを伝え合う授業を大切にしていく。